

作品 No.226



生きものの“つぶやき”:

「何か用？そんなにこっち見んなって…」

エッセイ:

「うわっ！？こんなところにいるの？」このカエルを見つけたのは、僕が郵便ポストの郵便物を確認した時に外出したらインターホンにたたずんでいた。眠たそうな顔をして、置物に間違えられるくらい静かに動かず、じっとしていました。私の家のインターホンの上に、こんな風にいたことは初めてではありません。ただ、壁の色と体の色が一緒になっているカエルをみかけたことは初めてのことでした。身を守るために、色を変えたのでしょうか……。実際に壁と同化しているカエルを見たことで私は驚きました。そして、本当に生き物の体のつくりについて感動しました。実は、自分の周りには知っているようで知らないことであふれている。そう思うと、出かけることが以前よりも楽しみになりました。まずは、博物館よりも自宅の庭で。たくさんの発見が待ち受けているはず。(355字)

生きものの紹介:

ニホンアマガエル

家のインターホンの上で過ごしている。夏にはたくさん現れ、雨天時には道路で鳴き声と共に姿を見かける。

撮影場所・日時:

自宅の玄関前・9月20日

応募者の自己紹介:

1. 葛西 公平／栃木農業高等学校1年
2. 陸上部
3. 将来の夢：農業用ドローンの操縦士

審査員よりひとこと

エッセイが素晴らしい。写真からは、可愛さの中にも生きることへのエネルギーが感じられます。